

提言第20号 血液検査パニック値に係る死亡事例の分析

事例1

< 事例概要 >

- ① 60 歳代、変形性股関節症で手術予定の外来患者。
- ② 術前の血液検査。
- ③ 患者は下肢痛があり変形性股関節症の診断を受け手術の方針となった。術前検査時は、食事がとれず倦怠感の訴えがあり点滴後帰宅した。検査結果は、WBC 21,500 / μ L、CRP 34 mg/dL であったが、パニック値の項目や閾値の設定など報告の仕組みがなかった。患者は、2 日後に倦怠感があり救急外来を受診し、その後意識障害が出現した。医師は、その時に術前検査結果を確認し、敗血症のため転院搬送した。
- ④ 搬送先に到着直後（パニック値検出より2 日後）に死亡。
- ⑤ 死因は、腸腰筋膿瘍による敗血症。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。